ご注意：本書は正式な取り扱い説明書ではありません。

　本書は取り扱い説明書から注意文など製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したもので、操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった目的のために無償でご提供しています。正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

　１：正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

　２：アマチュア無線機の場合、無線局免許状の書き方は申請書式や技適基準改正により変更になっているものがたくさんあります。http://www.alinco.co.jp/denshi/10.html　に技適番号やデジタルモード（音声・パケット）に関する情報を掲載しておりますので、合わせてご確認ください。

　３：本書に記載の付属品・オプションアクセサリー・定格などは予告無く変更されているものがあります。最新の情報は弊社ホームページに掲載されています。

その他、動作や操作に関する良くあるお問い合せは：
http://www.alinco.co.jp/denshi/11.html　のＦＡＱページをご覧ください。

アルインコ（株）電子事業部

ＤＪ－Ｘ３　広帯域受信機　クイック・マニュアル

この度はアルインコＤＪ－Ｘ３広帯域受信機をお求め頂き誠に有り難う存じます。
本書は「取り敢えず使ってみよう」と言う方に、極めて基本的な操作をご紹介するものです。

（１） 電池・アンテナの装着
説明書Ｐ．１０からＰ．１３を参考に、アンテナと電池をセットして下さい。
（２） 電源を入れる
ＰＯＷＥＲキーを１秒ほど押すと“ＨＥＬＬＯ”の表示の後、１４５．０００の画面になります。ダイヤルを一度押すと１０　ＶＯＬの表示が出ますのでダイヤルを回し１５程度に合わせて下さい。これは音量の調節で、初期状態では少し音が小さいためです。５秒ほど放置するか、ダイヤルを２度押すと１４５．０００の画面に戻ります。
（３）普通のラジオの様にダイヤルで周波数を合わせて受信する＝ＶＦＯモード
この状態でダイヤルを回すと１４５．０２０とか１４４．９８０などのように数字が変わり、通常のラジオのようにダイヤルで周波数を動かして目的の電波を捕らえることが出来ます。ＢＡＮＫキーを一度押すと２桁目が点滅します。点滅中にダイヤルを動かすと大きなパスで周波数が変わります。２度押すと３桁目が点滅し、同じように素早く目的の周波数にチューン出来ます。
（４）放送を素早く聞く＝プリセットモード
Ｖ／Ｐ／Ｍキーを押します。ＰＣＷ１ｃｈの表示が出ます。これはＴＶ放送の音声バンドです。ダイヤルを回すと数字が変わります。数字はＴＶのチャンネルと同じになっています。ＢＡＮＫキーを押してください。ＰＣＡ .５３１の表示になります。これはAM中波放送バンドです。ダイヤルを回すとお近くのAM放送が受信できるはずです。夜になると遠くの放送も聞こえます。もう一度ＢＡＮＫを押すとＰＣＷ７６．１の表示になります。これはFM音楽放送バンドです。同じようにダイヤルを回して放送を受信してみてください。
（５）メモリーチャンネルに書き込まれた周波数を聞いてみる＝メモリーモード
Ｖ／Ｐ／Ｍキーを押して下さい。０００　２６．０９５０の表示になります。別冊の周波数帳をご覧下さい。この上段の０００は、周波数帳２ページ目、バンク０：盗聴波１のＢＫ０　ＣＨ００に対応します。ちなみにバンクは周波数をまとめて入れてある引き出し、と考えると分かりやすいと思います。この状態でダイヤルを回すと００１、００２とメモリーチャンネル表示が変わり、それに合わせて下の周波数表示も変わります。ＢＡＮＫキーを押すと１００，２００というようにバンク番号が変わり違う引き出しの周波数を取り出すことが出来ます。この状態でＶ／Ｐ／Ｍキーを押すと（３）のＶＦＯモードに戻ります。

（８）操作が分からなくなったら：
一旦電源を切り、左横のＦＵＮＣキーを押しながら電源を入れます。全てのアイコンが表示されながら立ち上がったら、ＦＵＮＣキーを離して下さい。工場出荷状態に戻ります。間違っても説明書Ｐ．３８のヘビーユーザー向けの「オールリセット」は行わないで下さい。書き込んである周波数データまで全て飛んでしまいます。

上記をご理解頂いた上で説明書をお読み頂くと、機能の細かいカスタマイズの方法も解り易くなるでしょう。その上でお分かりにならない点は０１２０－４６４－００７　アルインコサービスセンター（月ー金　１０－１７時　昼食時除く）までお電話にてお問い合わせ下さい。

最後に通信の受信について簡単にご説明させて頂きます。

　一般に広帯域受信機（ワイドバンドレシーバー、スキャナー）と呼ばれるものはトランジスタラジオの親分のようなもので、電波の割り当てのルールと受信のコツを覚える（調べる）ことで、中波ラジオ、短波放送、ＦＭ音楽放送、テレビ音声、一部の消防（都会ではデジタル化が進み、警察無線と同じく市販のラジオでは聞くことが出来ません）、業務、タクシーやバス、行政・防災無線、アマチュア無線、コードレス電話、違法無線（盗聴器含む）、ワイヤレスマイク（コンサート会場などで使われるプロ用含む）、鉄道無線など実に多岐に渡る電波が受信出来ます。

　ただ、これらはいつでもどこでも受信できるものでは有りません。弊社受信機にはこれら代表的な無線が聞き易くなるようあらかじめ周波数を書き込んでおりますが、時々周波数が変更されることもあれば、データ通信に割り当てられピロピロ、ザーザーというような雑音しか聞こえないチャンネルも有るかも知れません。なにより、これらの電波は放送以外は常に使われているわけでは有りません。発信源から遠かったり、ビルの中で使うなど電波環境の悪い場合は外部アンテナをつながないといけない場合も有ります（ディスコーンアンテナと呼ばれる小さな外部アンテナをお勧めします）。又、広帯域受信機は広い周波数をカバーするため、特定の周波数やモードはそのバンドに特化して設計されたラジオには性能的に劣ることがあるのも事実です。例えば、ＡＭやＦＭ放送を良い音で大きなボリュームで聞きたいだけ、というような場合は高価な広帯域受信機を買わなくても、３０００円のラジカセで事は足りるでしょう。

　釣りをするには道具を揃えるだけでなく魚の習性を知らないといけないのと同じで電波の使われ方や周波数、受信のコツ、アンテナなど周辺機器の使い方の情報をインターネットや雑誌で集め、時間・場所・通信が行われそうな局やイベントの有無などを総合的に判断すると効果的に受信が出来るようになります。

アルインコ（株）電子事業部　サービス課編

（６）自動選局＝スキャンを使う

自動的に周波数が変わり、信号の出ているところで止まります。ＶＦＯモードではＤＪＸ３でお聞きになれる周波数全てをスキャン、プリセットやメモリーモードではそのバンド又はバンク内をぐるぐる回って受信をします。

＊　ＶＦＯモード：ＳＣＡＮキーを押します。一瞬ＶＦＯの表示が現れ、周波数が動き出します。信号が有ると止まり音が出ます。昇順、降順はスキャン中にダイヤルを回すと切り替えられます。もう一度ＳＣＡＮキーを押すと止まります。

＊　プリセットモード：聞きたいバンドに合わせてからＳＣＡＮキーを押します。特に表示は出ませんが、周波数が動き、このとき小数点表示が点滅しスキャン中で有ることを表します。もう一度ＳＣＡＮキーを押すと止まります。

＊　メモリーモード：聞きたいバンクを選んでＳＣＡＮキーを押します。ＭＥＭＯＲＹ表示が現れ、スキャンを開始します。もう一度ＳＣＡＮキーを押すと止まります。

＊　プログラムスキャンモード：周波数帳の表紙裏に有る、コードレス電話や救急無線などのバンドを限定してスキャンするモードです。まずＶ／Ｐ／Ｍキーを押してＶＦＯモードに行きます。ＳＣＡＮキーを押したままにして下さい。ＶＦＯ表示が出ますからキーを押したままダイヤルを時計回りに回し、Ａ００（バンドの下限からスタート）又はｂ００（バンド上限からスタート）の表示に合わせてから、押しているＳＣＡＮキーを離して下さい。ＰＳ表示が出た後３８０ＭＨｚ帯の周波数をスキャンしますね？これがコードレス電話のバンドです。スキャン中にダイヤルを回すと次の周波数を探したり、スキャン方向の昇降順を変えたり出来ます。もう一度ＳＣＡＮキーを押すとスキャンが止まります。Ｖ／Ｐ／Ｍキーで好みのモードに切り替え受信を続けて下さい。一度ＰＳモードでスキャン設定すると次にＶＦＯモードでスキャンしてもＶＦＯスキャンは出来ず、ＰＳモードでスキャンが立ち上がります。ＶＦＯスキャンに戻すにはＶＦＯモードでＳＣＡＮキーを押しながらダイヤルを回し、ＶＦＯ表示を選んでＳＣＡＮキーを離します。

（７）盗聴器発見モードを使う

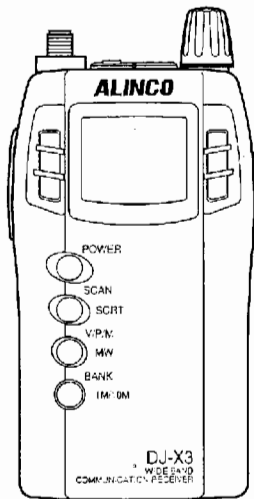
小型ワイヤレスマイク等と称して販売されているＦＭ音声電波の盗聴器の代表的な周波数をスキャンし、怪しい電波が無いかどうかチェックできます。説明書Ｐ．３５を良くお読み下さい。ただ、この機能を使ってスキャンが止まっても必ずしもそれが盗聴器を発見したことにはなりません。盗聴電波であればＤＪＸ３から周囲の音や声が一緒に聞こえます。

＊　どのモードでも関係なく、ダイヤルを２秒以上押し続けて下さい。２桁の数字と周波数、星印が表示され盗聴発見モードに入ります。もう一度ダイヤルを押すと停止、さらに２秒以上押し続けると元の受信モードに戻ります。

ALINCO

WIDE BAND COMMUNICATION RECEIVER

DJ-X3

取扱説明書

アルインコ ワイドバンドレシーバーをお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させるために、まずこの取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。

アルインコ株式会社

目　次

第１章　各部の名称と機能

第２章　DJ-X3 を使ってみよう

第３章　DJ-X3 の便利な機能

第４章　付　録

DJ-X3の特徴

DJ-X3は、小さなボディに多彩な機能を搭載したワイドバンドレシーバーです。
使いやすいシンプルなキー配列、簡単なキー操作で、広帯域のコミュニケーションメディアをワイドに体験できます。
DJ-X3には次のような特徴があります。

信号を素早くキャッチ

信号の出ている周波数を素早く探し出せるスキャン機能を搭載しています。指定したメモリーバンク内をスキャンする「メモリースキャン」、指定した周波数の上限・下限の範囲内をスキャンする「プログラムスキャン」など、いろいろなスキャン方法があります。

詳細は、
「スキャン機能」(P.28)
をお読みください。

多彩なメモリー機能

通常の呼び出しに使うメモリーチャンネルの他に、スキャンする範囲の上限・下限を設定できる「プログラムチャンネル」や、2つの周波数を交互に受信できる「プライオリティーチャンネル」など、多彩なメモリー機能を搭載しています。

詳細は、
「メモリー機能」(P.25)
をお読みください。

盗聴器を探知

盗聴器で使われそうな周波数を探知する機能があります。盗聴器があると判断すると、ディスプレイと警告音で知らせます。

詳細は、
「盗聴器発見機能」(P.35)
をお読みください。

秘話を再生

音声反転秘話機能で音声を反転している信号を元に戻す機能です。

詳細は、
「音声反転秘話機能」(P.34)
をお読みください。

●充電端子を絶対にショートさせないこと。
機器の故障やけがの原因となります。

●指定の専用バッテリーを使用すること。
●充電する時は、指定のチャージャーを使用すること。
それ以外を使用すると、液もれ・発熱・破裂し火災・けがの原因となります。

⚠注意

●幼児の手の届く場所には置かないこと。
けがなど事故の原因となります。

●磁気カードなどを近づけないこと。
製品に内蔵されている磁石や磁気を帯びた部品でフロッピーディスクやキャッシュカードなどの内容が消去される場合があります。

●湿度やほこりの多いところ、また高温となるところに保管しないこと。
●直射日光の強いところや炎天下の車の中などに長時間放置しないこと。
発熱・発火・故障の原因となります。

●電子機器に影響を与える場合は使用しないこと。
自動車内で使用した場合、車種によりまれに車両電子機器に影響を与えるものがあります。そのような場合は使用しないでください。
チューナー、テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。

●濡らさないこと。
水などの液体が入ると発熱・感電・故障などの原因となります。使用場所、取扱いにご注意ください。

●普通のゴミと一緒に捨てないこと。
発火・環境破壊の原因となります。

電波法上のご注意

電波法第59条で『特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない』と通信の秘密に関して定められています。本機の取り扱いには十分配慮し、電波法を守って下さい。

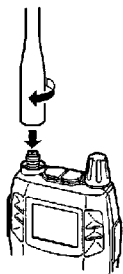
お願いとおことわり

・本機は厳重な管理の下に生産及び出荷されますが、万が一、ご不審な点やお気付きの点がありましたら、出来るだけ早くお買い上げいただいた販売店または弊社営業所へご連絡下さい。
・本機は広帯域受信機ですので、本体の内部発振(スプリアス)により、受信出来なかったり、雑音を発生する周波数もありますが、故障ではありません。
・この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。

付属品について

DJ-X3 には、次のものが付属しています。ご確認ください。

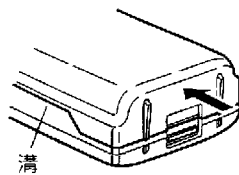
- 取扱説明書(本書)
- アンテナ
- ベルトクリップ(ビス 1 本)
- ストラップ
- 乾電池ケース(EDH-31S)
- ニッケル水素バッテリーパック(EBP-52NS)
- 充電器(EDC-105)
- アダプタ(EDC-92)
- 保証書
- 周波数データリスト

■アンテナの取り付け

アンテナは DJ-X3 本体左上の SMA 型アンテナコネクターに取り付けます。
アンテナの根元を持ち、図のように時計方向(右)にゆっくり回します。

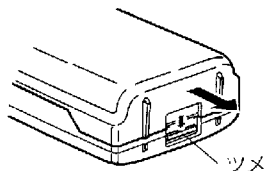
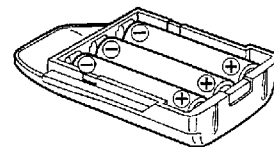
取り外すときは、反時計方向(左)に回します。

■乾電池ケースの取り付け

乾電池ケースをの取り付けかた

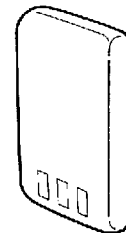
乾電池ケースを本体の溝に合わせて、押さえるように矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。

乾電池ケースの取り外しかた

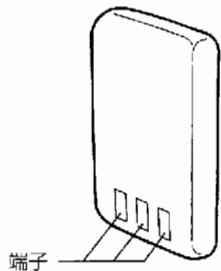
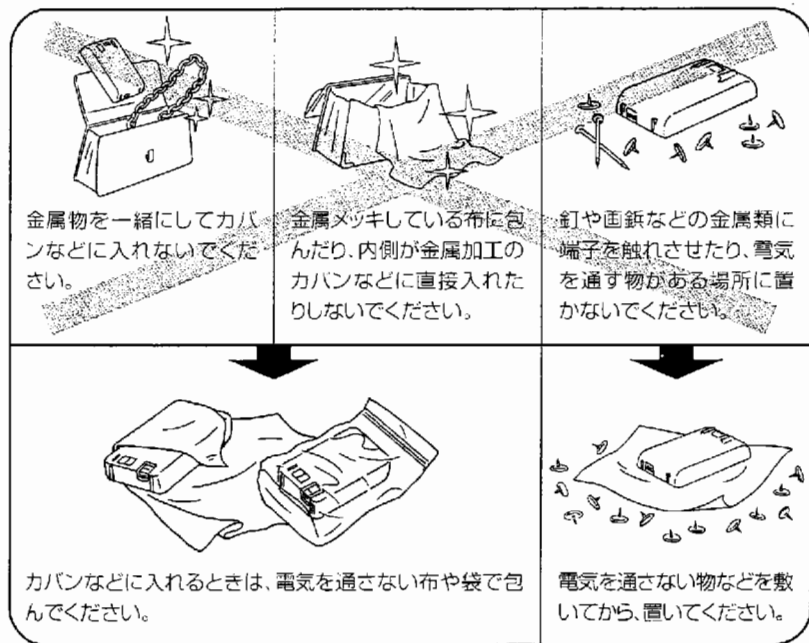
乾電池ケースのツメを押して、矢印の方向にゆっくり引き抜きます。

メ モ
付属のニッケル水素バッテリーパックも同じ方法で着脱できます。

■乾電池のセット

市販の単３型アルカリ乾電池３本を、ケース底面の「+」、「-」の表示にしたがってセットします。

注 意！
- 市販の単３型ニッカド乾電池は使用しないでください。
- 乾電池は同じ種類の新しいものを使用してください。
- 高容量のアルカリ乾電池を使用してください。

■ニッケル水素バッテリーパック

バッテリーパック	充電時間
EBP-52NS(3.6V-500mAh)	約10時間

注 意！
- 本機は出荷時には充電されておりません。
  お買い上げ後に充電してからご使用ください。
- 本バッテリーを EDC - 105 で充電する時は最大 10 時間が必要です。
- 充電は 0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
- バッテリーパックの改造、分解、火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。
  機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上の長時間の充電（過充電）はバッテリーの性能を低下させますので避けてください。
- バッテリーパックの保存は、-20℃ ～ +45℃の範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。
  それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- 通常の使用で約 500 回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がつきたものと思われます。
  新しいものにお取替えください。
- ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため燃えないゴミといっしょに捨てずに、当社サービスに相談するか、または電池回収協力店へご持参ください。

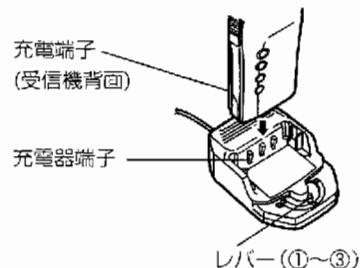
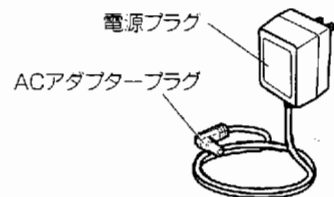
■バッテリーのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。
大電流が流れて火傷や火事を起こす危険があります。

金属物を一緒にしてカバンなどに入れないでください。

金属メッキしている布に包んだり、内側が金属加工のカバンなどに直接入れたりしないでください。

釘や画鋲などの金属類に端子を触れさせたり、電気を通す物がある場所に置かないでください。

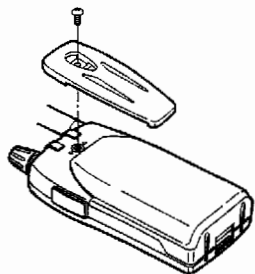
カバンなどに入れるときは、電気を通さない布や袋で包んでください。

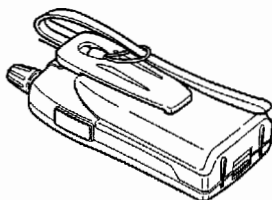
電気を通さない物などを敷いてから、置いてください。

■簡易充電器(EDC-105)
充電方法

1. 受信機本体にニッケル水素バッテリーパックを装着します。(バッテリーパック単体でも充電可能です)
2. ACアダプタープラグを充電器本体に接続します。
3. 充電時、受信機本体背面の充電端子と充電器の端子とが接触するように、充電器のレバーで、①から③の位置を選択してください。(バッテリーの種類により位置が異なります)
4. 電源プラグを家庭用電源のAC100Vのコンセントへ接続します。
5. 充電器の赤色LEDが点灯し、充電状態となります。(接続時は常時充電状態です)

注 意!

・充電中バッテリーの温度が一定以上高くなると、保護回路が動作し、充電をストップします。(赤色LEDが消灯します)その場合、速やかに受信機本体及び、電源プラグを取り外し、原因を取り除いてから使用してください。
・簡易充電器(EDC-105)を充電使用時には、必ずトランシーバーの電源を"OFF"にしておいてください。
・簡易充電器(EDC-105)を使用しない時には、電源コンセントから外しておいてください。
・他社製品の充電等には、絶対に使用しないでください。
・充電時間はバッテリーパックの消費状態及び各商品によって異なりますが、最大約10時間必要です。
各バッテリーパックの取扱説明書を参照してください。
・本機の充電端子を金属片等で短絡させたりすると、本機にダメージを与える場合があります。
・AC100Vが著しく低下すると、充電できないことがあります。

■ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップを付属のネジで本体の背面に取り付けます。
確実に取り付けたことを確認してください。

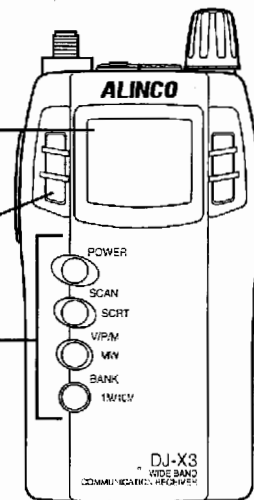
■ストラップの取り付け

ベルトクリップと本体の溝の間に左の図のように取り付けます。

外観図

■前面部

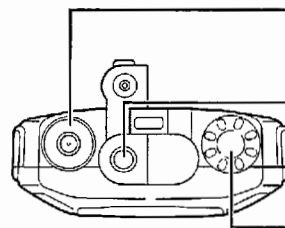
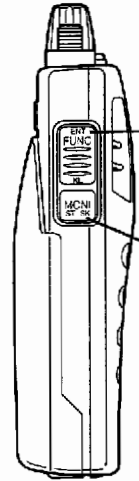
ディスプレイ
周波数や、各種設定内容などを表示します。(P.18)

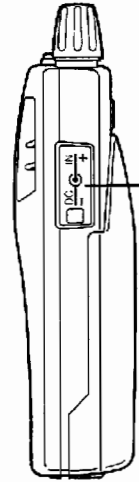
スピーカー
薄型スピーカーが内蔵されています。

キーボード
モードの切り替えや、各種設定に使います。(P.17)

■上面部

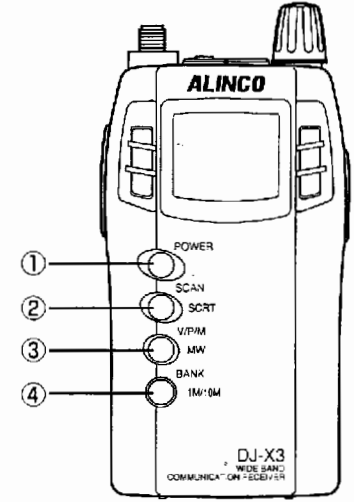
アンテナコネクター
付属のアンテナを接続するコネクターです。(P.10)

イヤホンジャック
イヤホンを接続するジャックです。

ダイヤル、[VOL/SQL (SET)]キー
ダイヤルを回して、周波数の増減など、各種設定をします。
ダイヤルを押すと、音量、スケルチの設定、セットモードでの項目選択ができます。

■側面部

[FUNC/ENTER]キー
各種設定の開始と決定に使います。
約1秒間押し続けるとキーロックができます。
(P.37)

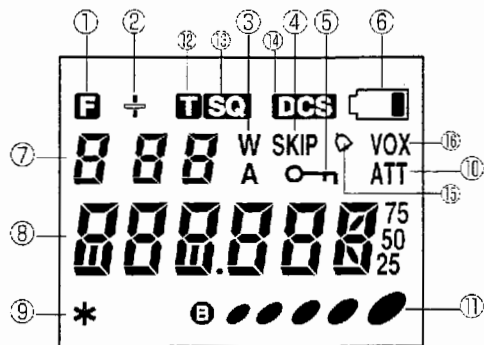
[MONI (ST/SK)]キー
押している間スケルチが開きます。
(P.21)
また、ミュート機能にも使用できます。
(P.21)

外部電源ジャック
外部電源で使用するときに、ACアダプターを接続します。

注 意！
市販の外部アンテナを使用するときは、アンテナアースは外部電源のアースと共通にならないように設置してください。

キー配置

	キー名称	機 能
①	[POWER]キー	電源をON/OFFします。
②	[SCAN (SCRT)]キー	スキャンを実行します。(P.28) F点灯状態では、音声反転秘話機能に使います。(P.34)
③	[V/P/M (MW)]キー	運用モードを切り替えます。(P.23) F点灯状態では、メモリーの書き込み、消去に使います。(P.26.27)
④	[BANK (1M/10M)]キー	プリセット、メモリーバンクを切り替えます。(P.24.25) VFO モード時は、ダイヤル1クリックで増減する周波数単位を切り替えます。

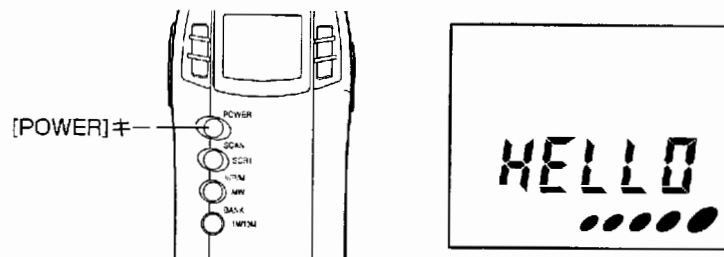
「F」点灯状態とは、[FUNC]キーを押して、ディスプレイの左上に「F」を点灯させた状態です。

ディスプレイ

図は全ての表示が点灯した状態です。

	説　明
①	各種設定時に[FUNC/ENTER]キーを押すと点灯します。
②	1000MHz以上の周波数を表示するときに点灯します。 (1000MHzの桁を示します。)
③	電波型式を表示します。電波型式がWFMのときはW、AMのときはAが点灯します。電波型式がFMのときは点灯しません。
④	メモリースキップ機能設定時に点灯します。
⑤	キーロックされているときに点灯します。
⑥	電池の残量が少なくなると点灯します。
⑦	メモリーのバンクNo.(左1桁分)およびチャンネルNo.(右2桁分)を表示します。
⑧	周波数や各種設定内容などを表示します。
⑨	音声反転秘話機能の実行中に点滅します。 盗聴器発見機能の実行中に点灯します。
⑩	アッテネーターがONのときに点灯します。
⑪	信号の受信レベルを表示します。

⑫から⑯は本機では使用しません。

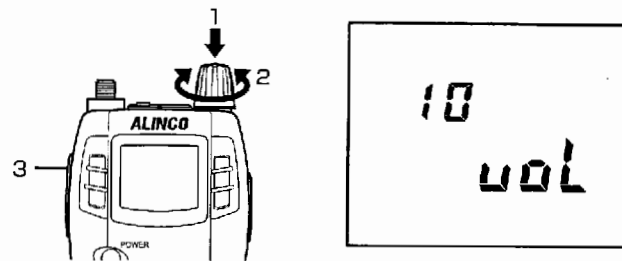
電源スイッチ

[POWER]キーを約1秒間押し続けると電源が入ります。
ディスプレイに「HELLO」と表示されます。

もう一度[POWER]キーを約1秒間押し続けると電源が切れます。

音量の調整

次に、音量を調整します。手順は次のとおりです。

1 **[VOL/SQL (SET)]キー(ダイヤル)を押します。**
ディスプレイに「voL」と表示されます。

2 **ダイヤルを回して音量を調整します。**
0～30の31段階で調整できます。数字が大きくなるほど音量が大きくなります。

3 **[FUNC/ENTER]キーを押します。**
通常モードに戻ります。

音が出ないときは?
スケルチが閉じている場合、またはミュート機能が動作している場合は音量の数字を大きくしても受信音は聴こえません。
詳細は、次の「スケルチの調整」(P.20)と「ミュート機能」(P.21)をお読みください。

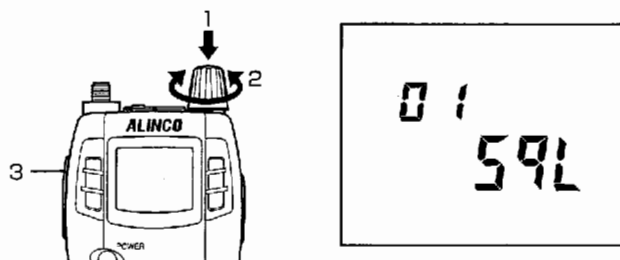
スケルチの調整

スケルチとは、一定レベル以上の信号を受信したときのみ、スピーカーから音を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから出る雑音をカットでき、待ち受けしやすくなります。
スケルチが動作している状態から、信号を受信して受信音を出す状態になることを「スケルチが開く」といいます。逆の場合を「スケルチが閉じる」といいます。

■スケルチレベルの設定

スケルチはレベルを設定することにより、どの程度の信号を受信したときにスケルチが開くかを調整できます。手順は次のとおりです。

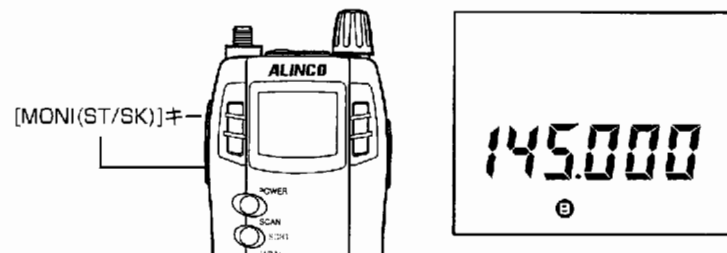
1 [VOL/SQL (SET)]キー(ダイヤル)を2回押します。
(ディスプレイに「voL」と表示されているときは、1回押します)
ディスプレイに「SqL」と表示されます。

2 ダイヤルを回してスケルチレベルを調整します。
0～10の11段階で調整できます。数字が大きくなるほどスケルチが開きにくくなります。

3 [FUNC/ENTER]キーを押します。
通常モードに戻ります。

メ　モ
スケルチを常時開いた状態にしたいときは、スケルチレベルを「0」にします。

■モニター機能

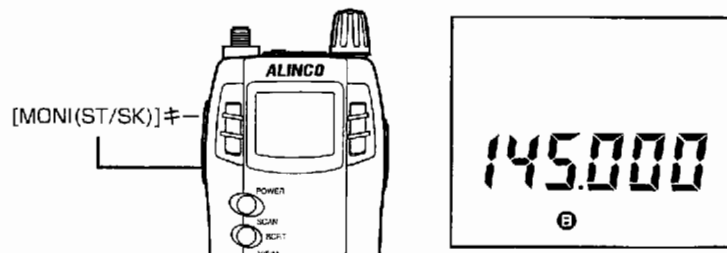
スケルチを強制的に開く機能です。受信信号が弱かったり音が途切れるときに、設定されているスケルチレベルに関わらず一時的にスケルチを開きます。この機能は、セットモード内で、[MONI (ST/SK)]キーの動作をモニター機能として設定した場合に有効になります。設定方法の詳細については、「MONIキーの動作設定」(P.48)をお読みください。

モニター機能にはHOLDとPUSHの2種類があります。2種類とも[MONI (ST/SK)]キーを押すことでディスプレイに「B」が点灯し、スケルチが開きます。

・PUSHの設定では[MONI (ST/SK)]キーを押している間だけスケルチが開きます。[MONI (ST/SK)]キーを離すと再び設定されたスケルチレベルに戻ります。
・HOLDの設定では一度[MONI (ST/SK)]キーを押すとスケルチが開いたままの状態を保ちます。再度[MONI (ST/SK)]キーを押すとモニター機能は解除され、設定されたスケルチレベルに戻ります。

PUSHとHOLDの切り替えはセットモード内で設定します。設定方法の詳細については、「MONIキーの動作設定」(P.48)をお読みください。

■ミュート機能

消音機能です。スケルチが開いて信号が入ってきても音を出さなくする機能です。また、ミュート機能が動作している間はビープ音も鳴りません。この機能は、セットモード内で、MONIキーの動作をミュート機能として設定した場合に有効になります。設定方法の詳細については、「MONIキーの動作設定」(P.48)をお読みください。

ミュート機能にもHOLDとPUSHの2種類があります。2種類とも[MONI (ST/SK)]キーを押すことでディスプレイに「B」が点滅し、ミュート機能が動作します。

・PUSHの設定では[MONI (ST/SK)]キーを押している間だけミュート機能が動作します。キーを離すとミュート機能は解除され、受信音、ビープ音などが聴こえるようになります。
・HOLDの設定では一度[MONI (ST/SK)]キーを押すとミュートの状態を保ちます。再度押すとミュート機能は解除され、受信音、ビープ音などが聴こえるようになります。

メ　モ
モニター機能とミュート機能はいずれか一方しか選択できません。

これで信号を受信するための準備ができました。次は、実際に周波数を合わせて信号を受信してみましょう。
次のセクションでは、DJ-X3がもつ3つの運用モードについて説明します。

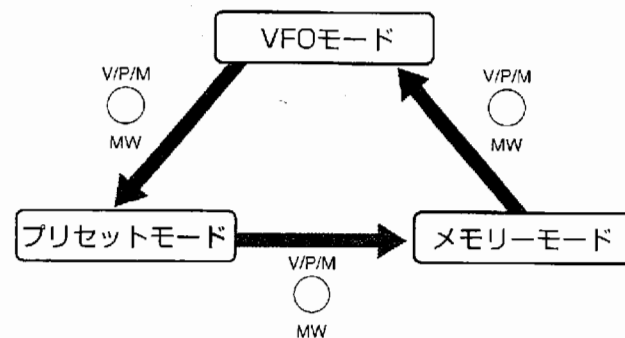
3つの運用モード

DJ-X3には、VFOモード、プリセットモード、メモリーモードの3つの運用モードがあります。

VFOモード…………ダイヤルで周波数を連続的に可変するするモードです。
プリセットモード……AMラジオ、FMラジオ、TV1～62チャンネルの音声周波数があらかじめセットされています。
メモリーモード………あらかじめ登録しておいた周波数を呼び出して運用するモードです。

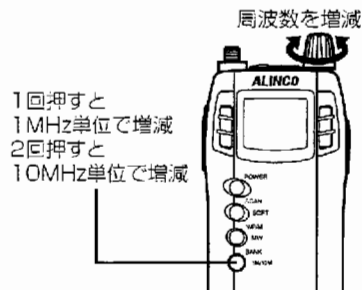
メ　モ
メモリー登録をするには、「メモリー機能」(P25)をお読みください。

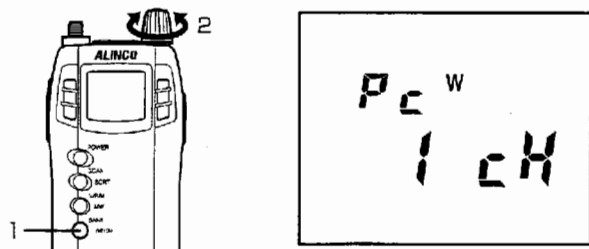
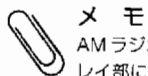
■運用モードの切り替え

[V/P/M (MW)]キーを押すごとに、図のように順にモードが切り替わります。

メ　モ
メモリーモードに何も登録されていないときは、メモリーモードはスキップされ、VFOモードとプリセットモードが交互に切り替わります。

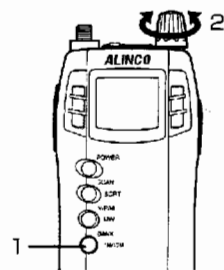
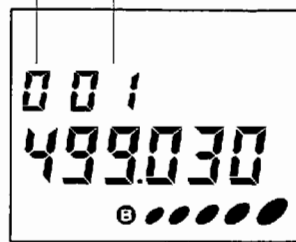
周波数の設定

■VFOモードでの設定

ダイヤルを1クリック回すと、周波数が1チャンネルステップ分だけ増減します。
[BANK (1M/10M)]キーを1回押すと1MHzモードになり、ダイヤルを1クリック回すと1MHz単位で周波数が増減します。
再度[BANK (1M/10M)]キーを押すと10MHzモードになり、ダイヤルを1クリック回すと10MHz単位で周波数が増減します。
1MHzモード、10MHzモードのときは、それぞれ1MHz桁、10MHz桁の数字が点滅します。

■プリセットモードでの設定

1 BANKキーで聴きたいバンド帯を選択します。
[BANK (1M/10M)]キーを押すごとに、バンド帯がAMラジオ→FMラジオ→TV→AMラジオ…の順に切り替わります。

2 ダイヤルで周波数(TVの場合はチャンネル)を増減します。

メ モ
AMラジオの場合はディスプレイ部に「A」と表示され、FMラジオ、TVの場合はディスプレイ部に「W」と表示されます。また、AM/FMラジオの場合は周波数が、TVの場合はチャンネルが表示されます。

■メモリーモードでの設定

1 [BANK (1M/10M)]キーでバンクを選択します。

2 ダイヤルでチャンネルを選択します
登録されていないバンク、チャンネルは選択できません。

メモリー機能

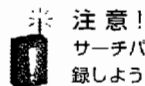
メモリー機能とはよく使う周波数などを登録し、用途に応じて呼び出して受信する機能です。登録された周波数をチャンネルと呼びます。
DJ-X3には通常メモリーチャンネル用、プログラムスキャンチャンネル用、プライオリティチャンネル用、サーチパスメモリーチャンネル用の4種類のメモリーバンクがあります。ここでは、それぞれの種類のバンクについて説明します。

■メモリーの種類と使い方

通常メモリーチャンネル…………メモリーモードで呼び出す通常のチャンネルです。70ch×10バンク、合計700chの周波数を登録できます。よく使う周波数を登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。

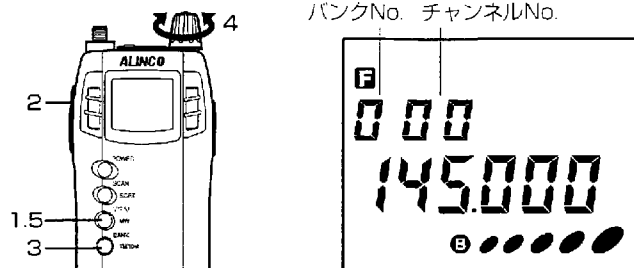
プログラムスキャンチャンネル……プログラムスキャン機能に使用します。20組の周波数範囲(上限と下限)を登録できます。

プライオリティチャンネル…………プライオリティ機能に使用します。8chの周波数を登録できます。

サーチパスメモリーチャンネル……スキャン時に停止して欲しくない周波数を登録しておくと、VFOスキャン時とプログラムスキャン時にその周波数をパスします。100chの周波数を登録できます。

注 意！
サーチパスメモリーチャンネル内に、同じ周波数を重複して登録することはできません。登録しようとするとエラー音が鳴ります。

■チャンネルの登録

チャンネルの登録方法は次のとおりです。

1 VFOモードで登録したい周波数を設定します。

2 [FUNC/ENTER]キーを押します。
ディスプレイに「F」、バンクの種類、チャンネル番号が表示されます。

3 [BANK (1M/10M)]キーでバンクを選択します。
バンクとメモリーの関係は次のとおりです。
0～9……………通常メモリーチャンネル用バンク
A、B ……………プログラムスキャンチャンネル用バンク
P…………………プライオリティチャンネル用バンク
J…………………サーチパスメモリーチャンネル用バンク
用途に応じて登録するバンクを選択します。

4 ダイヤルでチャンネルを選択します。
バンクの種類によって登録できるチャンネル番号は次のとおりです。
バンク0～9 ………00～69
バンクA、B………A00～B19
バンクP …………00～07
バンクJ……………00～99
バンクの種類が点滅しているチャンネルは空で、点灯しているチャンネルには既にデータが書き込まれています。

5 [V/P/M (MW)]キーキーを押します
チャンネルに周波数が登録されます。

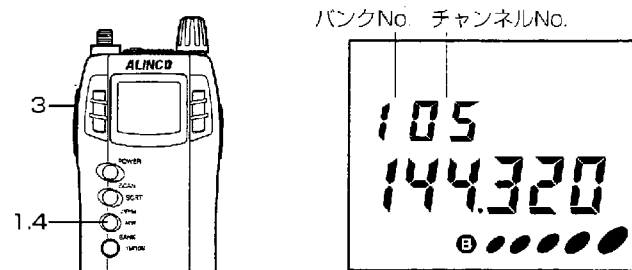
メ　モ
・メモリーの追加増設はできません。
・初期設定ではデータ既存チャンネルへの上書きはできません。詳細は「メモリー上書き設定」(P.46)をお読みください。

■チャンネルの消去

チャンネルに登録された周波数を消去する方法は次のとおりです。

1 [V/P/M (MW)]キーでメモリーモードにします。

2 消去したいメモリーチャンネルを呼び出します。
メモリーチャンネルの呼び出し方法については、「メモリーモードでの設定」(P.25)をお読みください。

3 [FUNC/ENTER]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

4 [V/P/M (MW)]キーを押します。
選択したチャンネルの内容が消去されます。

メ　モ
登録したチャンネルを一括で消去することもできます。詳細は「リセットのしかた」(P.38)をお読みください。

スキャン機能

スキャンとは周波数を周期的に変化させて受信し、信号の出ている周波数（チャンネル）をキャッチする機能です。

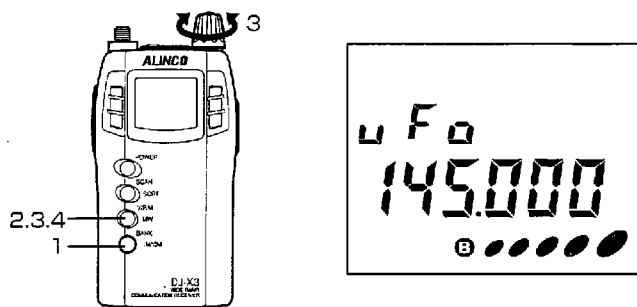
DJ-X3には次のスキャン機能があります。

VFOスキャン・・・・・・・・・VFOモードで100Hz～1299.995MHzの全周波数範囲をスキャンします。
プログラムスキャン・・・・あらかじめセットされた周波数の上限・下限の範囲内をスキャンします。
プリセットスキャン・・・・プリセットモードで選択したバンク内をスキャンします。
メモリースキャン・・・・・・メモリーモードで設定したバンク内をスキャンします。

■VFOスキャン

1 [V/P/M (MW)]キーでVFOモードにします。

2 [SCAN (SCRT)]キーを押します。

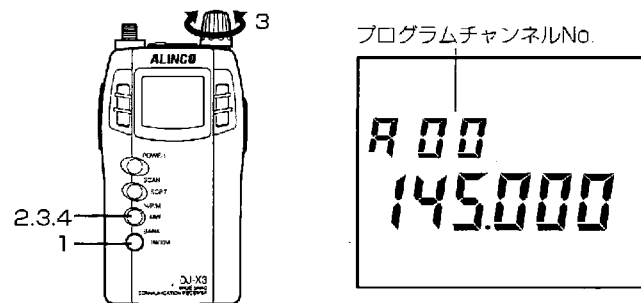
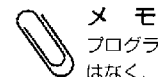
3 [SCAN (SCRT)]キーを押したままダイヤルを回して、表示を「vFo」に合わせます。

4 [SCAN (SCRT)]キーを離します。
VFOスキャンを開始し、ディスプレイの小数点が点滅します。
信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。

■プログラムスキャン

スキャンする範囲の上限と下限を設定して、その範囲内をスキャンします。設定した上限、下限の周波数をプログラムチャンネルと呼び、DJ-X3には20組のプログラムチャンネルを登録できます。設定方法の詳細については「チャンネルの登録」(P.26)をお読みください。
プログラムスキャンの操作手順は次のとおりです。

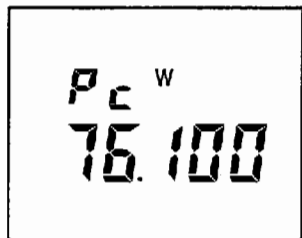
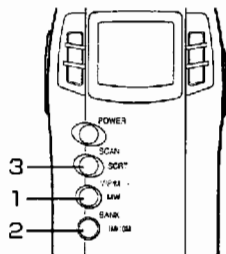
1 [V/P/M (MW)]キーでVFOモードにします。

2 [SCAN (SCRT)]キーを押します。

3 [SCAN (SCRT)]キーを押したままダイヤルを回して、スキャンを開始したいプログラムチャンネルを選択します。
同じ番号同士のAB間をスキャンします。

4 [SCAN (SCRT)]キーを離します。
プログラムスキャンを開始します。ディスプレイの小数点が点滅し、プログラムスキャンであることを示す「PS」が点灯します。信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。

メ モ
プログラムスキャン時のステップ周波数と電波型式は、メモリー書き込み(登録)時の設定ではなく、現在のVFOの設定になります。

■プリセットスキャン

1 [V/P/M (MW)]キーでプリセットモードにします。

2 [BANK (1M/10M)]キーで、AM ラジオ、FM ラジオ、または TV を選択します。

3 [SCAN (SCRT)]キーを押します
プリセットスキャンを開始し、ディスプレイの小数点が点滅します。
信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。

■メモリースキャン

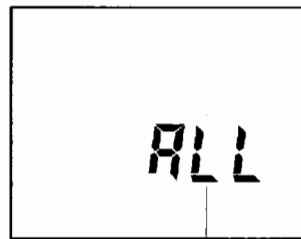
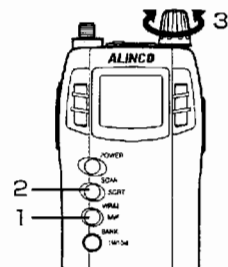
メモリーモード時に、特定のバンク内または全てのバンク内をスキャンします。

メモリースキャンには次の３種類があります。
単バンクスキャン ・・・・・選択した１つのバンク内のみをスキャンします。
バンクリンクスキャン ・・スキャンするバンクを最大５つまでリンクさせて、そのバンク内をスキャンします。あらかじめリンク設定が必要です。設定方法については「バンクリンクの設定」(P.43)をお読みください。
全バンクスキャン ・・・・・バンク０～バンク９の全バンクがスキャンの対象となります。

メ　モ
どの種類のスキャンでも、バンク A(B)、P、J はスキャンできません。

メモリースキャンの操作手順は次のとおりです。

1 [V/P/M (MW)]キーでメモリーモードにします。

2 [SCAN (SCRT)]キーを押します。
メモリースキャンの種類が表示されます。

メモリースキャンの種類

3 [SCAN (SCRT)]キーを押したままダイヤルを回して、メモリースキャンの種類を選択します。
mEmory・・・・・・・・・・・・単バンクスキャン
LInk・・・・・・・・・・・・・・・・バンクリンクスキャン
ALL・・・・・・・・・・・・・・・・全バンクスキャン
単バンクスキャンを選択したときは、メモリーモードで表示されている現在のバンクがスキャンの対象となります。

4 [SCAN (SCRT)]キーを離します。
メモリースキャンを開始し、ディスプレイの小数点が点滅します。
信号をキャッチすると、スキャンを一時停止します。

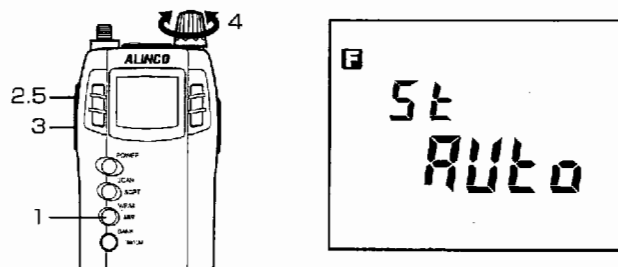
メ　モ
次の項目は各スキャンに共通の仕様です。
・スキャンの開始方向は、最後に操作した方向によって決まります。(ただし、プログラムスキャンの場合は対になる周波数の方向に向かってスキャンを開始します)
・スキャン中にダイヤルを回すとスキャン方向を変更できます。
・スキャンを停止するには、ダイヤル、[MONI (ST/SK)]キー以外の操作をしてください。
・スキャン中にモニター機能を動作させると、その間はスキャンが一時停止します。モニター機能を解除するとスキャンを再開します。
・スキャンを再開する条件を設定することもできます。詳細は、「タイマスキャン、ビジースキャン設定」(P.44)をお読みください。

チャンネルステップの設定

チャンネルステップとは、周波数を調整するときのワンステップあたりの増減量です。VFOモードで周波数を調整するとき、ダイヤルを1クリック回すごとに何kHz増減するかを設定します。
手順は次のとおりです。

1 [V/P/M (MW)]キーでVFOモードにします。

2 [FUNC/ENTER]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

3 [MONI (ST/SK)]キーを押します。
現在選択されているチャンネルステップが表示されます。初期設定は「AUto」です。

4 ダイヤルでチャンネルステップを選択します。
5、6.25、8.33、10、12.5、15、20、25、30、50、100、AUTOから選択します。単位はkHzです。

5 [FUNC/ENTER]キーを押します。
チャンネルステップの設定を完了します。

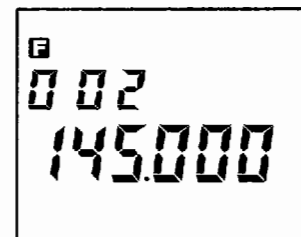
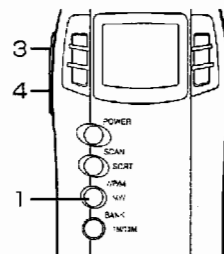
メ　モ
・AUTOは各周波数で適正のチャンネルステップと電波型式を自動的に設定する機能です。
・AUTOに設定されているときは電波型式の変更はできません。また、1620kHz以下の周波数のときは周波数ステップ、電波型式とも固定のままで変更することはできません。

メモリースキップ機能

メモリースキップ機能とは、メモリースキャン時に、設定したメモリーチャンネルをスキップさせる機能です。
スキップさせたいメモリーチャンネルを設定する手順は次のとおりです。

1 [V/P/M (MW)]キーでメモリーモードにします

2 スキップさせたいメモリーチャンネルを呼び出します。

3 [FUNC/ENTER]キーを押します
ディスプレイに「F」が点灯します。

4 [MONI (ST/SK)]キーを押します。
メモリースキップが設定されます。

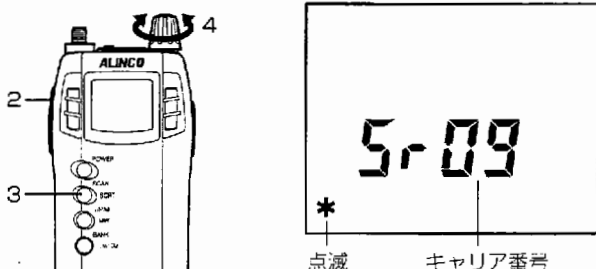
メモリースキップを解除するには?
メモリースキップを解除したいメモリーチャンネルを呼び出して、手順3、4の操作をします。

音声反転秘話機能

音声反転秘話機能で音声を反転している信号を、元の信号に戻す機能です。
手順は次のとおりです。

1 音声を反転している信号の周波数に合わせます。

2 [FUNC/ENTER]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

3 [SCAN (SCRT)]キーを押します。
音声反転秘話機能が動作し、ディスプレイに「*」が点滅して音声反転用のキャリア番号が表示されます。

4 ダイヤルでキャリア番号を合わせます。
キャリア番号は00～16から選択します。キャリア番号を変更しながら音声が認識できる状態に合わせます。

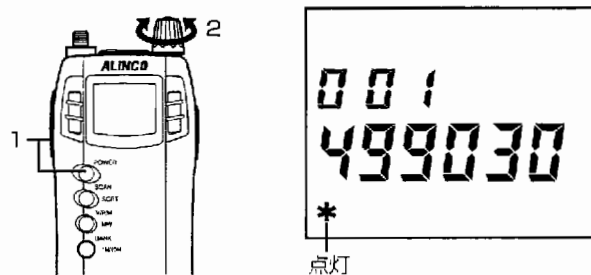
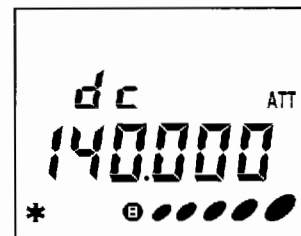
メ　モ
[FUNC/ENTER]キーを押すと、設定したキャリア番号で音声反転秘話機能を動作させながら受信周波数を変更できます。

音声反転秘話機能を解除するには?
[FUNC/ENTER]キーを押してから[SCAN (SCRT)]キーを押します。

盗聴器発見機能

盗聴器で使われそうな周波数を、登録したメモリーバンクでリンクスキャンをさせて盗聴電波を探知する機能です。盗聴器があると判断すると、ディスプレイと警告音で知らせます。

注 意!
この機能を動作させるときは、必ずイヤホンを外してください。

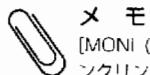
1 [MONI (ST/SK)]キーを押しながら電源を入れます。
ディスプレイに「*」が点灯し、リンク設定したメモリーバンクに従って自動的にスキャンを開始します。

盗聴電波があると判断すると、ディスプレイに「dc」が点滅し、スキャンが停止します。

2 [VOL/SQL(SET)]キー(ダイヤル)を押し、音量を調整できるようにします。
ハウリングの音が本体の向きで発生するように音量を調整し、盗聴器を探し出します。
このときスピーカの開口部をふさがないでください。

メ　モ
盗聴器発見機能の探知感度を設定できます。詳細は「盗聴器発見機能の感度設定」(P.42)をお読みください。

注意！

- 扉や窓を閉めた静かな環境で動作させてください。周りの音が大きいと、盗聴器を発見しにくくなります。
- 電波状況により正確に動作しないことがあります。
- 減電圧の状態では正常に動作しません。必ず新しい電池を使用して下さい。
- この機能はハウリングの有無により盗聴電波を探知するため、動作中に大きな音が出る場合がありますが、故障ではありません。
- 検知できる範囲は盗聴器の種類にもよりますが、８畳程度の広さです。

盗聴器発見機能を解除するには?

一度電源を切り、[MONI (ST/SK)]キーを押しながら電源を入れます。

メ モ

[MONI (ST/SK)]キーを押しながら電源を入れても盗聴器発見モードにならない場合は、バンクリンクが設定されていないか、リンク設定されているバンク内にメモリーデータが全く書き込まれていないと考えられます。この場合は、バンクリンクの設定をして、リンク設定したバンク内の少なくとも１つのメモリーチャンネルにメモリーデータを書き込んでください。

キーロック機能

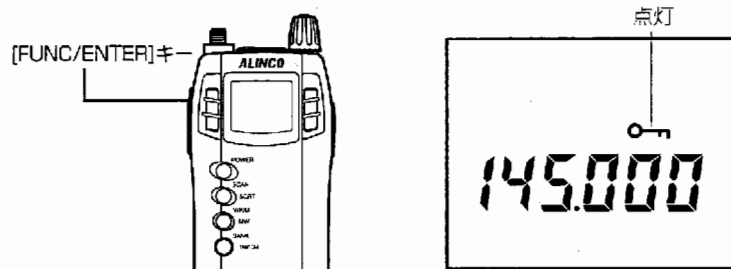
同じ設定で受信、待ち受けし続けたいときなどに、誤操作を防止するため、一時的にキー操作をできなくする機能です。

キーロック中でも次の機能は操作できます。

- モニター機能
- ミュート機能
- 音量、スケルチの調整
- キーロックの解除
- 電源の ON/OFF

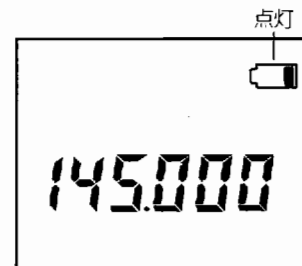
キーロックの設定手順は次のとおりです。

1 [FUNC/ENTER]キーを約１秒間押し続けます。

キーロックが設定され、ディスプレイにキーロック中を示すマークが点灯します。

キーロックを解除するには?

もう一度[FUNC/ENTER]キーを約１秒間押し続けます。キーロックが解除されて、キーロック中を示すマークが消えます。

バッテリ警告機能

電池の残量が少なくなると、ディスプレイに電池マークが点灯します。電池マークが点灯するとすぐに使えなくなるので、新しい電池と交換してください。

リセットのしかた

メモリーの登録内容や、各種設定などを消去し、初期設定に戻すことができます。

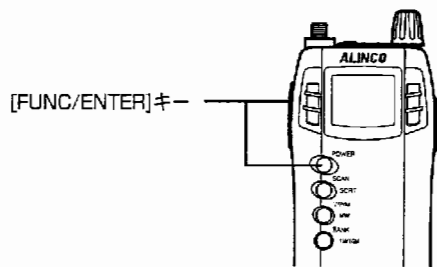
リセットには次の2つの方法があります。

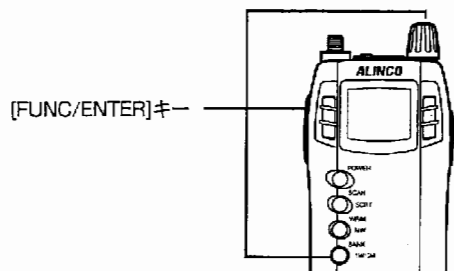
パートリセット…………………メモリーの登録内容は保持し、それ以外の各設定内容をリセットします。

オールリセット…………………メモリーの登録内容および各設定内容を全てリセットします。ただし、プリセット(AMラジオ/FMラジオ/TV)の登録内容はリセットできません。

リセットの手順は次のとおりです。

■パートリセットのしかた

[FUNC/ENTER]キーを押しながら電源を入れます。

■オールリセットのしかた

[FUNC/ENTER]キー、[BANK (1M/10M)]キー、ダイヤルを同時に押しながら、電源を入れます。

セットモード機能

各種機能をより使いやすくするために、DJ-X3をカスタマイズする機能です。
次の項目の設定ができます。

■各項目の設定方法

セットモードの各項目は次の方法で設定します。

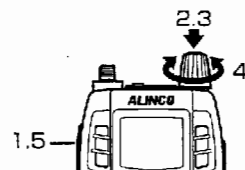
1 [FUNC/ENTER]キーを押します。
ディスプレイに「F」が点灯します。

2 [VOL/SQL(SET)]キー(ダイヤル)を押します。
セットモードに入り、項目名が表示されます。

3 [VOL/SQL(SET)]キー(ダイヤル)を押して、設定する項目を選択します。
[VOL/SQL(SET)]キー(ダイヤル)を押すごとに項目の表示が次のように変わります。
Att → whIP(EAr) → AbAr → SbAr → wAvE → StErEo(mono) → bUg → bLO → LAmP → tImEr(bUSy) → APo → bS → ow → Pr → bEEP → PUSH(HoLd) → monI(mUtE) → Att…

[MONI (ST/SK)]キーを押すと[VOL/SQL(SET)]キー(ダイヤル)とは逆の順番で項目が変わっていきます。

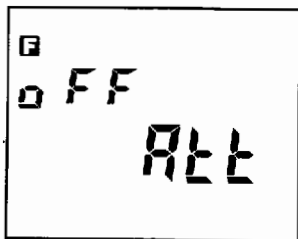
4 ダイヤルを回して設定値を変更します。

5 [FUNC/ENTER]キーを押します。
設定を完了します。

各設定の詳細は次をお読みください。

3 DJ-X3の便利な機能

■ATT(アッテネータ)機能

他のチャンネルからの影響を軽減する機能です。
受信している信号が他のチャンネルの強力な信号の影響を受けているような場合に使用します。
ATT機能をONにすると、受信信号レベルで約20dB減衰します。

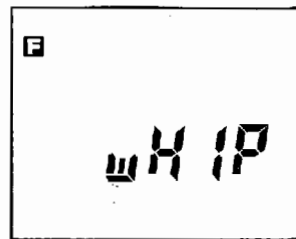
セットモードで「Att」の項目に合わせます。

・ダイヤルでON/OFFを設定します。
・初期設定はOFFです。

■アンテナの設定

DJ-X3は受信する周波数帯に応じてアンテナの種類の切り替えができます。
DJ-X3のアンテナには次の4種類があります。

AMバーアンテナ……………本体内蔵のアンテナです。AMラジオ帯を含む100～1620kHzを受信します。
短波用バーアンテナ…………本体内蔵のアンテナです。短波帯を含む1625kHz～12MHzを受信します。
イヤホンアンテナ……………イヤホンのコードがアンテナになります。12Mより上の周波数帯を受信します。
外部アンテナ…………………付属のホイップ型アンテナです。全周波数範囲で利用できます。

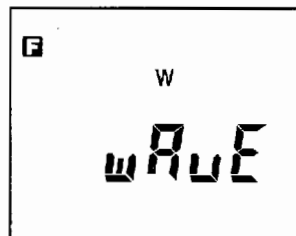
各アンテナの設定項目は以下のように表示されます。
AMバーアンテナ……………AbAr
短波用バーアンテナ…………SbAr
イヤホンアンテナ……………EAr
外部アンテナ…………………wHIP

セットモードで各アンテナの項目に合わせます。

・各種バーアンテナの場合は、ダイヤルでON/OFFを選択します。
・イヤホンアンテナの場合は、ダイヤルでイヤホンアンテナかホイップアンテナかを選択します。

メ　モ
・各種バーアンテナがOFFの場合は、外部アンテナ(付属のホイップ型アンテナ)での受信となります。
・イヤホンアンテナは、コードの状態によって受信される信号が不安定になることがあります。
・バーアンテナによる受信は、電波状況により信号が不安定になることがあります。

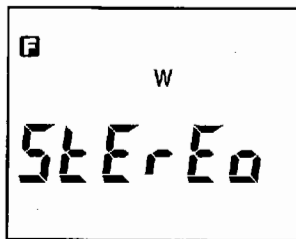
■電波型式の変更

電波型式(モード)をAM、FM、WFMから選択します。

セットモードで「wAvE」の項目に合わせます。

・ダイヤルを回すとAM→WFM→FMの順でモードが変わります。
・ディスプレイには、AMの場合は「A」、WFMの場合は「W」が表示されます。FMの場合は何も表示されません。

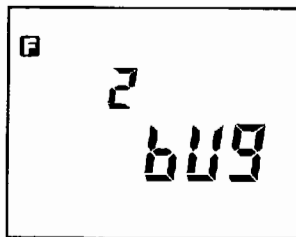
メ　モ
チャンネルステップがAUTOの場合、および1620kHz以下の周波数の場合はモードの変更はできません。

■ステレオ、モノラルの選択

セットモードで「mono」または「StErEo」の項目に合わせます。

・ダイヤルを回すと、「mono」と「StErEo」が交互に切り替わります。
・ステレオは、電波型式がWFMの時のみ有効になります。その他の電波型式の場合は、STEREOを選択していてもモノラルモードでの受信となります。
・初期設定はステレオです。

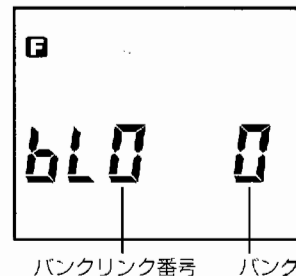
■盗聴器発見機能の感度設定

盗聴器発見機能動作時の探知感度を、0(高)～4(低)から選択します。

セットモードで「bUg」の項目に合わせます。

・ダイヤルで感度を設定します。
・初期設定は2です。

■バンクリンク設定

リンクした複数のバンクをスキャンする「バンクリンクスキャン」のための設定です。0～9までの10組のバンクの中から5つまでリンクできます。

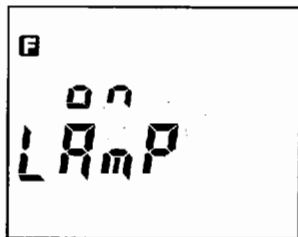
セットモードで「bL」の項目に合わせます。

・ダイヤルでバンクリンク番号を選択します。
・[BANK (1M/10M)]キーでバンクリンクしたいバンクを選択します。バンクリンク番号0～4に対して、リンクしたいバンクを1つずつ割り当てます。

メ　モ

・バンクリンクに1バンクしか入っていない状態でバンクリンクスキャンをした場合、設定しているバンクリンクの1バンク分だけをスキャンします。
・バンクリンクスキャンの詳細は「メモリースキャン」(P.30)をお読みください。
・盗聴器発見機能時のスキャンには、バンクリンクの設定が反映されます。
・盗聴器発見機能は、バンクリンクされたメモリーの中から盗聴器を探しだします。
・盗聴器発見機能を使用する場合は、必ず対応するバンクをリンク設定してください。

■LAMP(ランプ)機能

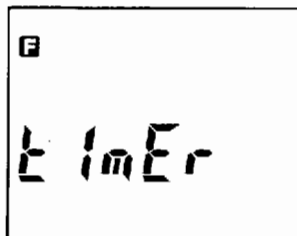
ディスプレイの照明のON/OFFを設定します。
ON設定時は、いずれかのキー操作をするとディスプレイの照明が自動的に点灯し、無操作状態が5秒間続くと自動的に消灯します。

セットモードで「LAmP」の項目に合わせます。

・ダイヤルでON/OFFを設定します。
・初期設定はONです。

■スキャンモードの設定(タイマスキャン/ビジースキャン)

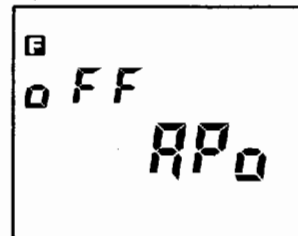
スキャンの再開条件を設定します。
スキャン中に信号を受信するとスキャンが一時停止しますが、この設定によりどのようなときにスキャンを再開するかを設定できます。

タイマスキャン(tImEr):信号を受信中でも5秒経過するとスキャンを再開します。
ビジースキャン(bUSy):信号を受信しなくなるとスキャンを再開します。

セットモードで「tImEr(またはbUSy)」の項目に合わせます。

・ダイヤルでタイマ/ビジースキャンを設定します。
・初期設定はタイマスキャンです。

■APO(オートパワーオフ)機能

電源を切り忘れても自動的に電源を切る機能です。
設定した時間内に操作がない場合に、自動的に電源が切れます。
電源が切れる直前にアラーム音が鳴り、電源が切れます。電源が切れるまでの時間は30分、60分、90分、OFFから選択できます。OFFに設定するとAPO機能は動作しません。

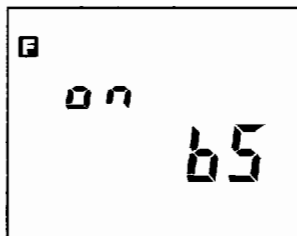
セットモードで「APo」の項目に合わせます。

・ダイヤルで時間を設定します。
・初期設定はOFFです。

メモ
スキャン中はAPO機能は動作しません。

3 DJ-X3の便利な機能

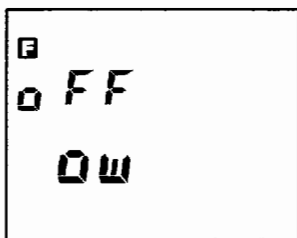
■BS(バッテリセーブ)機能

電池を長持ちさせるための機能です。
待ち受け状態が5秒以上続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消耗を少なくします。

セットモードで「bS」の項目に合わせます。

・ダイヤルでON/OFFを設定します。
・初期設定はONです。

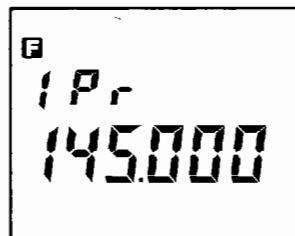
■メモリー上書き設定

すでに登録されているメモリーチャンネルを別の内容に上書きするか、しないかの設定ができます。

セットモードで「ow」の項目に合わせます。

・ダイヤルで上書き可/不可の設定をします。
「on」　:上書き可
「oFF」　:上書き不可
・初期設定は上書き不可(OFF)です。

■PRIO(プライオリティ)機能

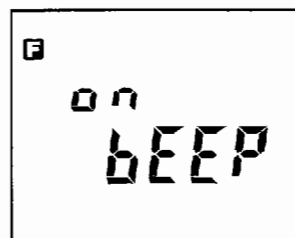
2つの周波数を交互に受信し、待ち受けを効率よくする機能です。
VFOモードを5秒受信するごとに、プライオリティチャンネルを0.5秒受信し、受信状態をチェックできます。

セットモードで「Pr」の項目に合わせます。

・ダイヤルで、プライオリティチャンネルを0ch～7chから選択します。
・[FUNC/ENTER]キーを押すと、セットモードを終了すると同時にプライオリティを開始します。

メ　モ
プライオリティ動作中はスキャンはできません。
プライオリティチャンネル側で受信した場合は、受信時間が2秒延長されます。

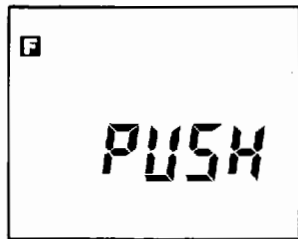
プライオリティを解除するには?
プライオリティ動作中に[SCAN (SCRT)]キー、[FUNC/ENTER]キーのいずれかを押します。

■BEEP(ビープ音)機能

キー操作時のビープ音のON/OFFを設定します。
セットモードで「bEEP」の項目に合わせます。

・ダイヤルでON/OFFを設定します。
・初期設定はONです。

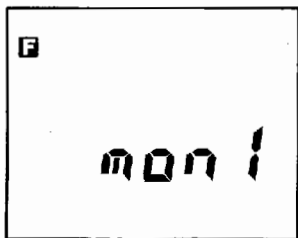
■モニター機能、ミュート機能の動作方法

モニター機能、ミュート機能使用時の[MONI (ST/SK)]キーの動作方法を選択します。

セットモードで「HoLd(または PUSH)」の項目に合わせます。

・ダイヤルで「PUSH」か「HoLd」かを選択します。
「PUSH」に設定すると、[MONI (ST/SK)]キーを押している間だけ、モニター機能またはミュート機能が有効になります。
・「HoLd」に設定すると、[MONI (ST/SK)]キーを押す度に、モニター機能またはミュート機能が動作、解除します。
・初期設定は PUSH です。

■ MONI キーの動作設定

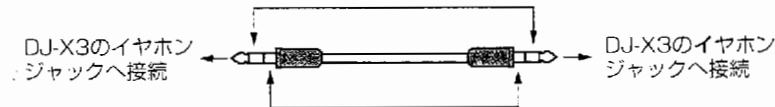
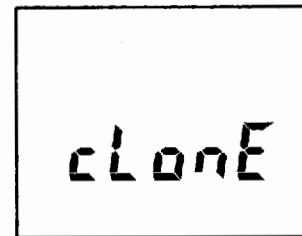
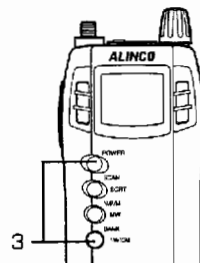
[MONI (ST/SK)]キーを、モニター機能、ミュート機能のどちらに使うかを選択します。

セットモードで「monI(または mUtE)」の項目に合わせます。

・ダイヤルで「monI」か「mUtE」かを選択します。
「monI」に設定すると、[MONI (ST/SK)]キーはモニター動作になります。
「mUtE」に設定すると、[MONI (ST/SK)]キーはミュート動作になります。
・初期設定は MONI です。

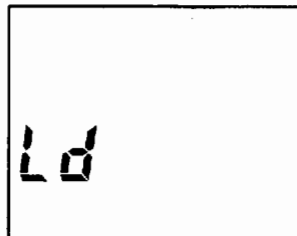
クローン機能

クローン機能とは、1 台の DJ-X3(送り側)に設定した全てのメモリー、設定内容を他の DJ-X3(受け側)に転送し、同じ設定内容にする機能です。
クローン機能の操作手順は次のとおりです。

1 送り側、受け側両機の電源を切ります。

2 2 台の DJ-X3 のイヤホンジャックをクローンケーブルで接続します。

3 両機とも[BANK (1M/10M)]キーを押しながら電源を入れます。
両機のディスプレイに「cLonE」と表示されます。

4 送り側のダイヤルを押します。

クローンを開始し、送り側のディスプレイには「Sd □□□□」、受け側のディスプレイには「Ld □□□□」と表示されます。(□□□□はどんどん変化します。)

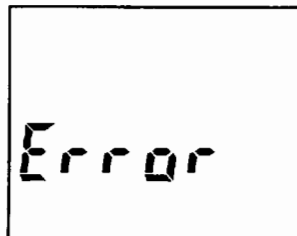
(送り側)

(受け側)

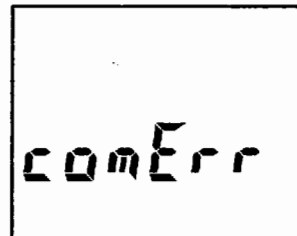
クローンが正常に終了すると、両機のディスプレイに「PASS」と表示されます。
電源を切り、もう一度入れ直すと通常どおりに使えるようになります。

注 意！

- データの送受信中はクローンケーブルを抜かないでください。
- クローン機能を実行すると、受け側のデータは全て送り側のデータに更新されてしまいます。実行の前には受け側の既存データにご注意ください。
- 「PASS」表示のあと、クローンケーブルを抜いたときや、相手側の電源を切ったときなどに「comErr」が表示されますが、「PASS」と表示されたあとであれば問題なくクローンされています。

「Error」と表示されたときは?

転送中に不正なデータが送られた場合は、両機のディスプレイに「Error」と表示されます。送り側のダイヤルを押すとクローンを再開します。再度表示される場合はデータが不正なためクローンできません。

「comErr」と表示されたときは?

接続上の不具合が発生した場合は、両機のディスプレイに「comErr」と表示されます。
クローンケーブルをしっかりと接続し直して下さい。
送り側のダイヤルを押すとクローンを再開します。

続けて別の DJ-X3 にもコピーするには?

クローン終了後、送り側はそのままで、受け側を別の DJ-X3 につなぎ替え、受け側の[BANK (1M/10M)]キーを押しながら電源を入れます。送り側のダイヤルを押すとクローンを開始します。

トラブルシューティング

使用中にトラブルが起きた場合は、次のことをご確認ください。
また、処置をしても解決しない場合は、リセットすることで解決する場合があります。

トラブル	考えられる原因	対処方法
電源が入らない	電池が消耗している	乾電池を入れ替えるか、充電池を充電する
	電池の+.ーが逆になっている	極性を確認して電池を入れる
	電池ケースが接触不良を起こしている	バッテリケース内の電極の汚れなどを取り除く
スピーカーから音が出ない	音量レベルが低すぎる	音量を上げる
	イヤホンが接続されている	イヤホンを外す
	スケルチが閉じている	スケルチレベルを調整またはOFFにする
異常な表示や動作になる	CPUが誤動作している	一旦バッテリーを外して電池を入れ直すか、それでも解決しなければリセットする
	電池が消耗している	乾電池を入れ替えるか、充電池を充電する
感度が悪い	スケルチレベルが高すぎる	スケルチレベルを調整またはOFFにする
	アッテネータがONになっている	アッテネータをOFFにする
	アンテナ切り替えスイッチが適当でない(WHIP/EAR/ABAR/SBAR)	使用するアンテナの種類を確認して切り替える
受信音が悪い	周波数が合っていない	周波数ステップを変えて周波数を調整する
	電波型式が合っていない	適切な電波型式を選択する
	電池が消耗している	乾電池を入れ替えるか、充電池を充電する
周波数などの設定ができない	キーロックがかかっている	キーロックを解除する
スキャンができない	スケルチが開いている	スケルチを雑音が消えるレベルに設定する
プログラムスキャンができない	プログラムスキャンのエッジがメモリに正しく登録されていない	上限、下限の周波数を正しく登録する

アフターサービスについて

■保証書

保証書には必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

■保証期間

お買い上げの日より１年間です。
正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。
保証書の規定にしたがって修理いたします。

■保証期間が経過した場合

お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。

アフターサービスについて、ご不明な点はお買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

定 格

■一般仕様

周波数動作範囲	: 0.1 ～ 1299.995 MHz
受信周波数範囲	: 0.1 ～ 1299.995 MHz
電波型式	: A3(AM),F3(FM,WFM)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω不平衡
アンテナ端子	: SMA 型
電源電圧	: DC3.6V ～ DC6V (外部入力電圧 DC4.5V ～ 16V)
接地方式	: マイナス接地
消費電流	: 待ち受け時 約 75mA バッテリーセーブ時 (1:4) 約 39mA
使用温度範囲	: -10℃ ～ +60℃
周波数安定度	: ± 5ppm (-10℃ ～ +60℃)
外形寸法	: W56 × H102 × D23mm (突起物除く)
重量	: 145g (ニッケル水素バッテリーパック・アンテナを含む)

■受信部

受信方式		: トリプルスーパーヘテロダイン		
中間周波数		: 1st : 248.45MHz, 2nd : 38.85MHz, 3rd : 450kHz		
選択度	AM / FM	: -6dB / 12kHz 以上 -60dB / 30kHz 以下		
	WFM	: -6dB / 150kHz 以上		
受信感度 (代表値)				
	AM	:0.5 ～ 1.62MHz	17dB μ以下	10dB S/N
		1.62MHz 以上	5dB μ以下	10dB S/N
	FM	:30 ～ 550MHz	-3dB μ以下	12dB SINAD
		550MHz 以上	0dB μ以下	12dB SINAD
	WFM	:13dB μ以下		12dB SINAD
低周波出力		: MAX 220mW 以上 (8 Ω)		